

小学校

光村ポケット生活

わたしの
実践アイデア



「知ってる」「できるよ」から始まる
架け橋期の学び

実践 File
vol.4

和歌山市立和佐小学校
林真希先生のご実践から

1年 スタートカリキュラム
幼保小の交流



光村図書



LINE公式アカウント友だち募集中!
授業づくりに役立つ情報を、
いち早くお届けします。



【教授用資料】本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。

「知ってる」「できるよ」から始まる 架け橋期の学び^(1年)

和歌山市立和佐小学校 教諭 林真希

活動のねらい

5歳児から小学校1年生までの「架け橋期」は、幼児期の学びや育ちを小学校での学びにつなげ、さらに伸ばしていくための大切な時期です。1年生の担任として、子どもたち一人一人が、これまでの経験をもとにして抱いた疑問や興味を大切に、子どもの自然な考えを原動力として活動を進める1年間にしたいと考えました。そこで、隣接する幼稚園と日常的に交流できるようにするとともに、子どもたちのこれまでの学びを丁寧に聞き取り、それを踏まえて活動を展開していけるよう、計画しました。

活動の流れ

実施時期	単元	活動内容
4月	スタートカリキュラム	- 園でやったことのある遊びや活動を行う。 - 各教科の学習につながる遊びや活動を行う。
6月	レッツゴー！ 学校たんけん	- 学校の「はてな」を集め、探検を通して解決する。 - 発見したことを、多様な表現方法を用いて紹介する。
8月～11月	幼稚園の子と いっしょに遊ぼう！	- 園庭で、園児といっしょに、水や泥、しゃぼん玉で遊ぶ。 - 小学校で、園児といっしょに、秋の祭りを楽しむ。
11月～2月	新しい1年生に 学校を紹介しよう！	- 入学する5歳児の小学校体験に向けた準備をする。 - グループで小学校体験のブースを作り、5歳児を招待する。



スタートカリキュラムの工夫

幼児期の学びを調査し、スタカリに生かす

本校では、六つの幼稚園や保育所などから新入生を迎えます。そのため、1年生のスタートにあたり、一人一人異なる学びや育ちを踏まえ、学びの連続性やつながりを意識して計画を立てる必要があると考えました。

そのために、まず、園でどんな遊びをしてきたか、どんなことに取り組んできたか、児童や保護者に聞き取り調査を行いました。入学直後のスタートカリキュラムでは、それをもとに、各園で取り組んできた本の読み聞かせや遊びなどを取り入れました。また、そこから文字や数字を使ったクイズに発展させ、なめらかに各教科の内容につながっていくようにしました。児童一人一人が、園での経験を小学校生活に生かしていけるという実感と、これからの自分の生活をより豊かなものに切り拓いていく自信をもつことができました。

	A 幼稚園	B こども園	C 保育所
ひらがな・文字		○ ペン習字・漢字	○
数量・図形		○	○
楽器		○ 鍵盤ハーモニカ	○ 鍵盤ハーモニカ
土遊び	○	○	○
工作	○	○	
主な遊び	おにごっこ かくれんぼ ままごと ボール遊び	けいどろ ままごと ドミノ遊び ブロック カードゲーム	おにごっこ かくれんぼ 塗り絵
グループ活動	○		
手遊び・歌	かもつ列車	かもつ列車 大きな古時計	かもつ列車 犬のおまわりさん
日直・朝の会・帰りの会	朝の会（先生）	日直・朝の会（歌） 帰りの会（先生）	日直・朝の会（歌） 帰りの会（先生）
給食当番	お手伝い	○	○
係活動			○ 給食台拭き

幼稚園・保育所等での活動経験の調査票



学校探検の工夫

園での経験を学校への興味につなげる

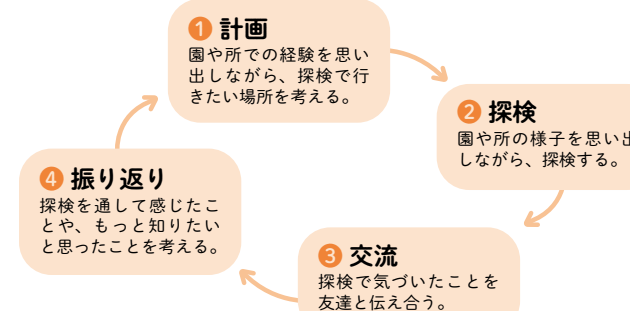
学校探検の導入では、まず児童に、「みんなの幼稚園や保育所などには、どんな場所があったかな。」「みんなはどんなことをしていたのかな。」などと問いかけました。児童からは、「お遊戯室があったよ。」「給食の台を拭く係をやっていたんだ。」など、園での経験がたくさん出てきました。さらに、「小学校にも給食があるのかな。」「幼稚園と同じなのかな。」などと、学校への興味や疑問も生まれてきました。園での経験を思い出すことで、学校のさまざまな人や場所について知り、関わりを深めていきたいという思いが生まれ、学校探検につなげることができました。

実際の探検も、児童から出てきた興味や疑問を軸にして活動を進めていくことを大切にしました。探検を始める前には、園での経験と照らし合わせて、もっと知りたいこと、不思議に思ったこと（はてな）に注目します。そのうえで、探検で行きたい場所や会ってみたい人、してみたいことを自分で決め、計画を立てるようにしました。探検は、この計画を起点としたサイクルを意識して進めていきました（右図）。

サイクルに沿って繰り返し探検していくことで、気づきが深まり、身近な人と関わることの楽しさを味わいながら活動することができました。また、自分の通っていた園と学校の様子とを比べることで、それぞれの場所の特徴に気づくことができました。

発見したことは、絵やクイズ、動作化・ペープサートなどで表現したり、写真を使って地図や掲示物にまとめたりしました。表現を自分らしく工夫し、友達と楽しく伝え合うことで、互いの発見の共通点や相違点にも気づき、学校の良さを感じることができました。

学校探検のサイクル



活動の様子

パビリオンに見立て、「学校のひみつ」を紹介する



児童の関心が高かった大阪関西万博のパビリオンに見立て、発見したことを紹介した。



技術員の仕事を体験し、紹介する際には、実際の道具を使って実演しながら発見を伝えた。



発見が伝わる
表現方法を考える

自由で柔軟な交流をいっしょに楽しむ

幼稚園、保育所等との交流活動にあたっては、児童も幼児も、それぞれの思いや願いを実現でき、学びを育んでいけるようにすることを目指しました。

本校では、あらかじめ決まった交流の場面を設けるのではなく、日々の休み時間にも子どもたちが自由に校庭と園庭を行き来できるよう、園の教職員と協力して環境を整えました。そうしたことで、児童にとっては幼児との交流が身近なものとなり、より相手意識をもって関われるようになりました。同様に幼児も、小学校を身近に感じられるようになり、小学校入学後の生活に期待感を

もてるようになりました。

幼児との交流活動にあたっては、「余白」と「柔軟性」を大切にしています。幼稚園教諭とは事前に、「その場の流れを大切にしていきましょう。」を合言葉に、子どもたち一人一人の力を存分に発揮できる「余白」と、子どもたちの姿に応じて「柔軟に」学びを膨らませていける教師の見取りの重要性を確認しています。そうすることで、児童も幼児も主体的に活動に取り組むことができるようになり、いっしょに活動する時間を楽しむ様子が多く見られるようになりました。



園庭は日陰が多く、夏でも涼しいため、自然に児童と園児が交流する場所になった。



年間を通していっしょに活動することで、互いが身近な存在になり、一人一人が伸び伸びと活動できるようになった。



教科書にはこんな工夫も

教科書には、生活科の学びを支える工夫が満載。
ここでは、編集部が特におすすめしたいポイントをご紹介します。

●幼児期の経験を生かしたスタートカリキュラム

スタートカリキュラムのページでは、幼児教育で行われる読み聞かせのように、絵を見て気づいたことや思ったことを伝え合う活動を取り入れています。幼児期に慣れ親しんだ活動を通して学校について考えることで、これまでの学びや育ちを安心して発揮し、主体的に学校生活に向かうことができるようになります。



▲上巻p10「わたしの がっこう」



光村図書

教授用資料

発行者 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9
電話:03-3493-2111(代表)

光村図書ウェブサイト

光村図書 | 検索

